

京都帝國大學新著の埃及古物

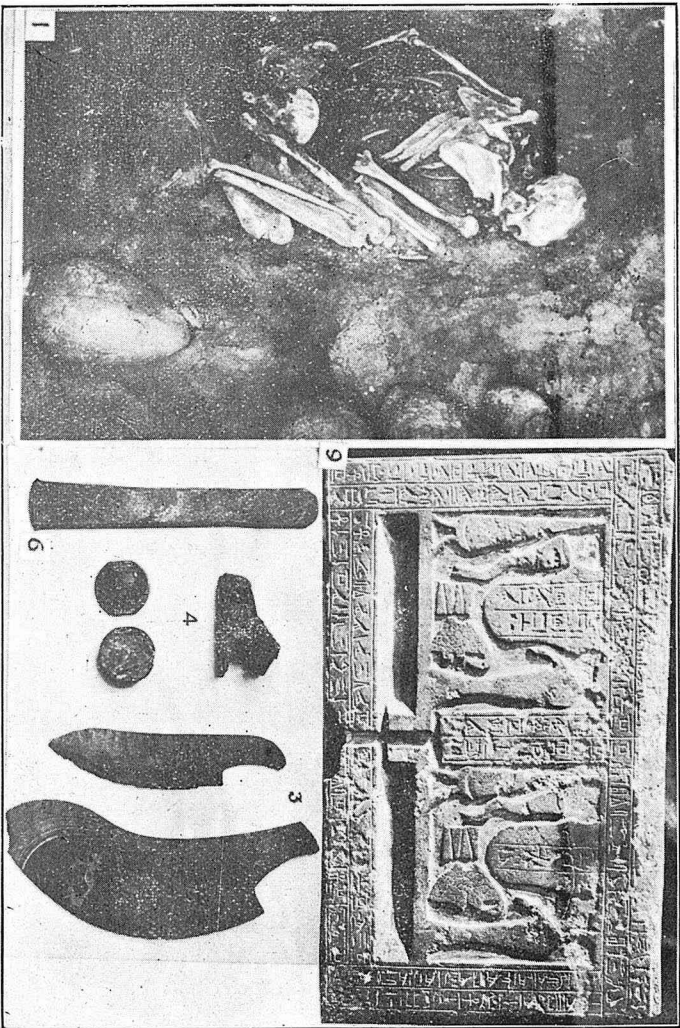
文學博士 濱 田 耕 作

京都帝國大學では、從來も英國の埃及發掘財團 (Egypt Exploration Fund) に加入して、數回に亘つて埃及各時代の遺物の寄贈を受け、文學部陳列

館中に光彩を放たしむるに至つたが、同財團の事業も歐洲戰亂の結果、暫く中止の姿となつてゐたので、昨年から更めてペトリイ教授の主宰せられてゐる英國埃及考古學會 (British School of Archaeology in Egypt) に寄附金サブスクリプションをして其の古物の分配に預ることゝなつた。その第一回分として、丁度本年十月末英國から九箇の大箱が到着して、新に多數の埃及發掘古物が陳列室内に飾られるに至つた。恰も十一月十五日皇后陛下が大學に行啓になり、親しく文學部の陳列館をも台覽あらせら

るゝことなつたので、早速此の新著の古物をも整理陳列して、陛下の御目にかけることが出來たのは、我々の深く喜びとする所である。

ペトリイ教授から私への手紙にもあつた如く、這回の送品は特別に澤山送つたので、例年斯の通りには出來ないと斷つてあつたが、其の古物の選擇も、例の周到なる先生の指圖によつたもので、未だ埃及の考古學的遺物に乏しい絶東の大學の小博物館にとつて、最も應はしいものをと、特殊の好意を示されたのは、我々の深く先生に感謝する所である。今またに右の品物中主要なるものについて、ペトリイ教授の説明書を本として略解を試みよう。英國埃及考古學會からの送狀によれば、總



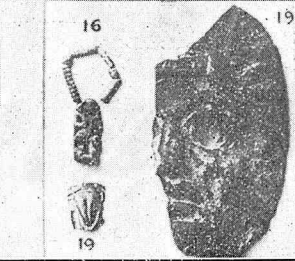
17



14



18



16

19



20

19

計五十種ばかりであるが、點數から云へば、百以上になる。昨年の冬から今年にかけて發掘せられた上埃及のアビドス (Abydos) 發見の品を主として、其の附近のコム・エス・サルタン (Kom-es-Sultan) 其他オキシリノコス (Oxyrhynchos) タイ・ヘン (Tai-yeha) シター (Tuh) の諸地から發見せられたもので、大なるものは墓中の人骨一體と副葬土器一群や、二三人の人手を要する石の彫刻などもある。時代は第一王朝から、中帝國新帝國を通じて羅馬時代コプト時代に迄互つてゐる。先づ最も古いものから擧げて見ることにする。

(一) 第一王朝遺物ニアビドス發見

(1) 第三、八、七號墓發見、屈葬人骨、及副葬土器、是は此の時代の遺物中最も著しいものであらう。熟年の男子と思はれる骨格で、左側を下に屈葬せられてゐるのは王朝以前の埋葬と同じである。大小の壺十四箇其の上下と右側とに副葬せられて、それに

は多く粘土の蓋がしてある。骨格は解體して送つて來たが、原狀の寫眞によつて、醫學部清野教授の助手宮本君の手を煩はして、再び砂上に組立て、土器をも舊の通りに並べて、硝子箱中に裝置することゝなつた。たゞ殘念なことは、寫眞には見えて居つた下顎骨の右半が紛失して存しないことである。此の第一王朝の墳墓に關してはペトリ博士は「人類」本年第九月號に簡單なる記事を載せられてゐる。之によれば先年發掘せられたアビドスの王墓を距る一哩許の處に、三ヶ處の方形大墓地がある。

煉瓦壁を以て、各五尺に四尺許りの墓穴を劃し、其内に王朝以前のそれと同じ様に屈葬してあるのが、即ち此の墓群である。其の埋葬の狀態から推測すると、中には氣絶さして死に切らないのを葬つたらしいものもある、一人の王に數百の殉葬を行つたものと見える。發見された凡ての遺骨は頭蓋四肢骨等を計測し、中約八十の頭蓋をバラフイ

ンで固めて倫敦へ持歸り、又た數個は全骨格を搬出したとあるが、我が京都大學へ送られたのは、即ち此の數個の一であるに相違ない。副葬品には土器、アラバスター製容器、燧石製石器、銅製器具の類がある、又た象牙製の獅子像や遊戯具などもあつたと云ふことである。第一王朝はペトリ博士によれば、紀元前約六千年、マイヤー博士によれば約四千年。人骨の頭蓋は四肢に比して小さく其の形は著しく長頭ドリコヤワルである。

(2) アラバスター製石容器 中二箇は第五三四號墓一箇は第四六四號墓發見で圓筒形をした半透明に近い石容器である。前者は徑四寸五分位高八寸に近い大きいもので、後者は小形で徑二寸五分、高四寸位。いづれも前述の第一王朝時代の墳墓から出たものである。石容器の製作は王朝以前に於いて最も發達し、第一王朝頃は未だ其の精巧な手法を傳へてゐた時代である。

(3) 燧石製石刀 大小三箇は、五六寸から一尺に至る。熱れも柄付きで反りのある形を具へてゐる。其の手法は王朝以前に見るが如き連波形 (ripple-line king) では無くて、鱗形打製 (scaling) である。

(4) 象牙製獅子、同半球狀闘戲具、同鏃 この獅子は長さ二寸五分位の臥像で、其の寫實的技巧は實に驚嘆するに堪へたものである。若し之を現時の技術家の手に成つたものと云つても、唯も疑はないであらう。斯う云ふ藝術が今から數千年前に發達してゐたことは、彼の舊石器時代洞穴の壁畫の獸像と共に一對の驚異である。牙鏃は圓形で七本、川形の符號を刻込んでゐる。

(5) 土製穀倉模型 は圓筒形で、頂部が縮まつたもので高七寸位、實物は高さ四五尺のある穀物入れの模型で、支那漢六朝頃の明器にも、同じく穀倉の模型の困のあることは面白いと思ふ。

(6) 銅手斧 第七一二號墓發見の長さ六寸五分位の

細長い所謂 *ankh* と稱せられるものである。埃及でも最も古い時代の銅器に屬する。

(二) 第六王朝遺物 (アビドス附近コム・

エス・サルタン發見)

(7) 石灰岩製墨汁容器、二箇の圓筒形のを聯成し、一側に平板が附著してゐる。

(8) 銅斧、骨器及石灰岩球、銅斧は撥形を呈し、骨製品は手の形を一端に模した物を搔き延べるに使用する所謂 *stretch* と呼ばれる可きものである。石球は徑三寸位何に使つたものか私には分らない。

(三) 第十二王朝遺物 (アビドス發見)

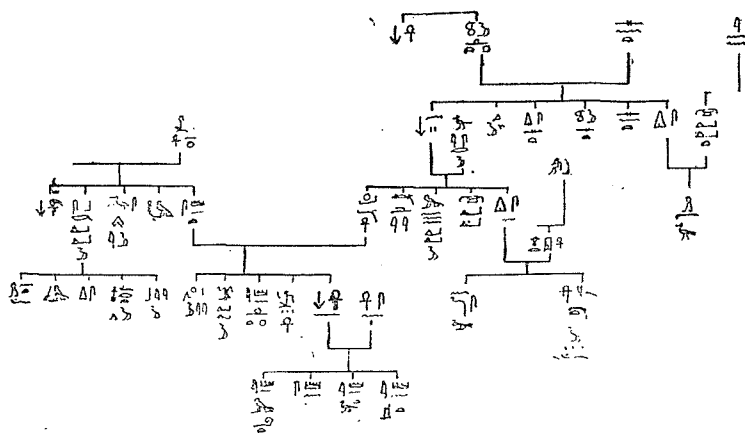
(6) 石灰岩製祭壇、長一尺八寸、幅一尺一寸、厚約六寸の長方形のもので、表面には鳥獸の供物などを現はし、又た一方に溝を穿つて側面に及んでゐる。是は犠牲の血を流す爲めであらうか。此の石の表面周縁と一側面とは、象形文字で之を作つた人の夫妻の家族の名を悉く刻して、凡て四十三

人の名が見えてゐる。一の石に斯く多數の家族の名を記してあるものは、未だ當て見たことがない。ペトリイ先生が言つてゐられる。今各人名の所在位置と、之を系圖的に書き現はしたものを先生が送つて來られたから、次頁に示さう。

(10) ネフェル・ヘテブ・センブ 碑石、從來我が陳列室には、英國牛津のポール博士寄贈のアスワン發見の第十二王朝頃の貧弱な碑石しか無つたが、此の碑石は當代の代表的手法を示し、高さ一尺五寸位、全く完好のものである。最頂部には、例の神聖の眼 (*naht*) 一對を現はし、次段には左方に腰を掛けたネフェル・ヘテブ・センブ (*Nefert-Hetep-Senb*)、その前には供物を置いて右方に其の子アメニ・ヤンブ (*Ameni-Senb*) の立姿を描き、下段には供物の左右に其の妻セント (*Sent*) 乳母ヌブ・ヅツ (*Nub-Dudu*) の坐してゐる處を刻してある。

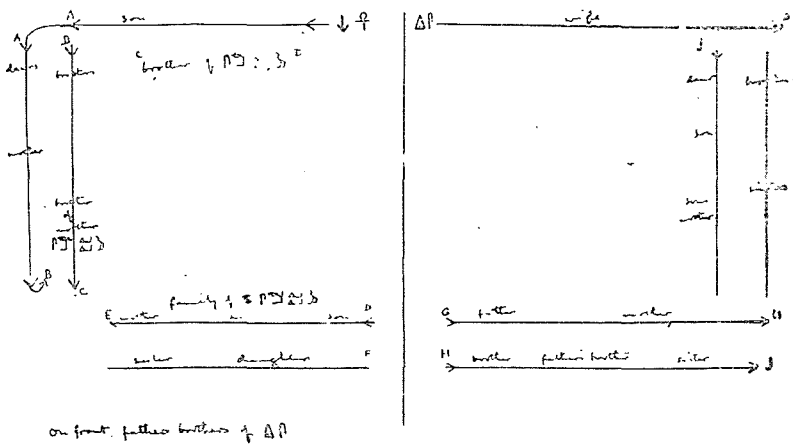
(11) 碑石断片、これは前記のものよりは精巧な手法

GENEALOGY OF FAMILIES RECORDED ON ALTAR



圖系族家銘刻壇祭(6)

ORDER OF ARRANGEMENT OF FAMILIES.



圖序順銘刻壇祭(6)

を示し、二人の頭部が見える。

(12) 石製容器、は低い壺形のもので、他は所謂「コール壺」(Kohltopf) と稱し、埃及婦人の眼の周圍に化粧する顔料を入れたものである。私は此の壺を見る毎に、倫敦大學のベトリイ教授の教室で、先生の指導により、同大學所藏の「コール壺」全部を圖寫し、時々先生の嚴しい批評を受け、書き直はされたことを思ひ出すのである。

(四) 第十八第十九王朝遺物 (アビドス發見)

(13) 銅鏡、銅製、コイル用斗等、前者は徑三寸位の小さい圓鏡で、表裏何等の模様もない。一端には小さい突出がある。後者は前項に見えた「コール壺」の顔料を塗る時に用ゐる斗である。第十八王朝の遺物で前年發掘財團から送つて來たものにデル・エル・バハリ神殿發見のものが多數にあつたが、今度は此の王朝のものは少ない。

(14) 碑石斷片、是は第十九王朝のもので、二人の間が、左方に坐してゐるオシリスの神に供物をして居る處を現はしてある。例の埃及藝術に見る如く、兩手共に左右の一方に描いてあるのを認めることが出来る。頂上には又た面白い猿の形が見える。

(五) 第二十八王朝遺物 (アビドス及タイ・エバ發見)

(15) 石棺破片、これは緻密な石灰石で作つた、アンヘル・アンフ・オンク (Anher-anfonkh) と呼ばれた人の石棺の一部分である。木乃伊形の像と、精巧に彫つた象形文字が全面に残つてゐる。時代は或は第二十六王朝とも云はれ、大跡しか決めることは出来ない。是はアビドス發見である。

(16) 青釉ブター神小像、青釉の小さい懸垂用の像である。ブター (Ptah) はケネム神を助けて世界創造に與つた神で、希臘の神ヘフワエストスに相當す

る。工藝技術者の保護神で、メムフェイスで崇拜せられた爲め、此の都市の政治的位置からして、愈々重要さを増したものである。なほ此の像に小さい青釉の珠玉が附屬して一聯となつてゐる。(タ
イ・エバ發見)。

(六) 羅馬領及コプト時代 (オキシ
リンコス等發見)

(17) 羅馬官人彫像頭部、等身より少し大きい位の彫像の頭部で、頸の裏には胴躰の突起に合す可き差込みの孔が穿つてある。全躰に淡黄色の石鏽が出た大理石であるが、恐らくパロス島あたりの石材で、オキシリンコスに居つた希臘以來の工匠が作つたものであらう。オキシリンコスの列柱の建物 (Colonnade) から、發見せられたものと言はれてゐる。口髭から下頤の髯まである角張つた如何にも羅馬の武骨な軍人らしい人の肖像で、オキシリンコス駐在の嚴格な羅馬の總督の様な役人を寫した

ものであらう。手法の上から紀元第二世紀頃の作品と鑑定せられるが、其頃は羅馬ではトラヤン、ハドリヤン、マルクス・アウレリウス(即ち支那の史籍にある大秦王安敦) などの時代で、未だ羅馬彫刻も甚しく墮落の域に、陥らない頃のものである。固より此の頭などを以て希臘盛時の彫刻を忍ぶことは出来ないが、羅馬諸帝の肖像彫刻位は推察するには差支ない。兎に角希臘羅馬彫刻の原作で、此の位のものは我國には恐らくは他にあるまいと思ふ。私は鈴木君が荷物の一箇を開いた時、此の頭が轉がつて出た時の歡喜の情を云ひ現はすことが出来ない。私に取つてはミロのゾイナスの像が飛び出したも同様であつた。

(18) 劇場址發見柱頭及小壁裝飾浮彫、兩者とも第六世紀頃のもので石灰岩で作り、前者は方柱ジュスタクの頭部である。アカンサスの葉でコリント式から變化した、ビザンツ風の様式を示してゐる。支那大同雲

崗あたりの彫刻に現はれてゐるコリント式系統の柱頭と似通つてゐるのも、時代と變遷の経路から見て興味を覺える。又た後者は幅六寸長五尺に餘るもので、一種の雄健なる唐艸を刻出し、ヌツツコを塗つて彩色した一部分も殘存してゐる。是れ亦た支那六朝や、我が推古時代のものと比較して其の間に一道の聯絡を認めることが出來よう。オキシリンコス(Oxyrhynchus)はカイロ府の南百二十哩、今のベーネサ(Behnesa)にあつて、希臘人はベムテーと稱し、古代埃及では一の地方の首府であつた。後ち希臘人が多く入り込み、「ヘレニステック」文化の一中心となり、羅馬時代に及んでゐる。基督教の傳來以後此の地に修道僧が集まり、十二の大きな教會堂と無數の修道院が建てられ、紀元第五世紀には、一萬の僧と一萬二千の尼が居つたと云はれてゐる。千八百九十七年以後英國のグレンフェル(Grenfell)・ハント(Hunt)二氏によつて二回の

發掘が行はれ、希臘、コプト、アラビヤ文字の文書(papyri)が非常に澤山發見せられ、其のうちには希臘古代の哲學書文學書からして、日常生活に關する文書、基督教に關するものなどがあり、非常な重要な資料を我々に提供した。此の點に於いてオキシリンコスの名は永く記憶せらる可きである。又た此地の魚は古代埃及時代から神聖視せられて有名なものであつた。埃及發掘財團からも前年二回に互つて、此地發見の各種の遺物を送つて來たので、此の時代の遺物は非常に豊富となつた。

(19)各種雜品、羅馬時代の草履、蠟書用木板、玻璃製腕輪、鉛製裝飾品、土製燈器(Lamps)、土製假面の破片又た土製騎馬の人形、同じく母羊が二匹の子羊に哺乳してゐる像其他雜多の小品がある。又た是はオキシリンコスでは無くタイ・エバ發見ではあるが、黄金の薄葉で舌の形をしたものがある。死者

の舌上に置いたものであらう。なほ同處から發見の小玉と耳飾がある。

(20) コプト時代刺繡及織物斷片 埃及の乾燥した沙漠の中に保存せられた此の紀元第六世紀頃の刺繡織物が、今なほ鮮かに當時の美しい色彩を残してゐるのは、理屈から云へば敢て不思議では無いが、又た驚かされずには居られない。皇后陛下も特に立止まつて其の色彩の鮮明に残つてゐるのを御注意になつた位である。而して我々に取つて興味のあることは此等の意匠紋様が波斯あたりの影響を受け、一方は東羅馬に、他方は支那を經て日本迄及んで居り、又た其の中間の中亞支那土耳其斯坦の遺物も近年東西の探検家によつて發見せられたことである。而して正倉院や法隆寺などにある刺繡織物と此のコプト時代のその間に姉妹の關係のあることに我々は頗る興味を感ずるのである。但し前年發掘財團からも既に若干標品を我が陳列

室に送つて來てあつたので、愈々材料が豊富になつた次第である。材料は麻と毛とで勿論絹は見當らない。

以上の外埃及各時代の土器が大小三十五箇送付せられて、我が陳列室の一つの戸棚を充足して餘りあるに至つた。古いものは第一王朝から、第十一、第十二、第十七、第十八王朝を經て羅馬時代に及んでゐる。中には彩色の模様があるものもあり、大きなものは高さ三尺に近く唐辛の如く先きの尖つた据りの悪いものがある。此等は苦心の末針金を以て宙吊りをさすことにした。又た之には粘土の封蓋をしたものがあつて内部に落ち込んでゐる。土器が考古學上の時代の決定に重要な位置を占めてゐることは今更云ふ迄もないが、埃及の各時代の土器を一の「シリーズ」として見ることが出来るのは、全くペトリイ先生の好意によることである。尤も倫敦文學にかける土器の偉大

にして完全な聚成陳列を比べたならば殆ど云ふに足らないが。私は我が京都帝國大學の考古學標本室の埃及古物の聚集コレクションが、前には埃及發掘財團の好意により、今またペトリ教授の英國埃及考古學會の送品によつて、確に日本に於いて最大なるものとなつたことを誇負し得るのを喜ぶと共に、更に年を経て一層の増加を來たし此の世界に

支那の記録に見えたるイスラム教徒の猪肉食用禁制

支那人は古來猪肉——單に猪といへば、支那では豕と同一である——の愛用者として知られて居る。太牢といへば牛羊豕、少牢といへば羊豕を指す。遠き古代から祭祀にも燕饗にも、殆ど猪肉は必須の材料と認められた。又その調理法も早く發

於ける最古の文明の産物が、より適切に我邦に紹介せられ、文化に對する見解を廣くすると共に、最も組織立てられた埃及考古學の研究が我國の考古學の研究に間接の刺戟を興ふること愈々大なることを希望して已まない。而して之に向つて深甚なる同情を表せられつゝあるペトリ先生に對して改めて厚く感謝の意を表し度いと思ふ。

文學博士 桑原 隲藏

達して居る。此等の事實に關する經傳の記事繁くして一々引用するに勝へぬ。この慣習は後世に至つても變化がない。否一層甚しくなつた様と思ふ。今日支那で肉といへば一般に猪肉を指し、屠戸といへば主として宰猪的を指す程である(二三、